

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

チョウザメを核とした産学官連携による地域活性化計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道中川郡美深町

### 3 地域再生計画の区域

北海道中川郡美深町の全域

### 4 地域再生計画の目標

#### 4-1 地方創生の実現における構造的な課題

美深町は、北海道の北部、稚内市と旭川市のほぼ中間にあり、総面積 672.09 k m<sup>2</sup>のうち、約 86%を山林が占め、全国第4位（北海道第2位）の河川である天塩川の本流沿いの肥沃な農耕地として拓けた。夏季は温暖、冬季は寒気が強烈で降雪も早く、道内でも有数の豪雪厳寒地帯として特有の気象条件下にある。

人口は、1960年の14,046人をピークに減少を続け、2015年には4,659人となっている。主な産業は農林業であるが、後継者不足や高齢化等による農家数の減少等により厳しい状況にある。

このような中であって、美深町では早くからチョウザメの養殖に取り組んできている。昭和58年水産庁養殖研究所から300尾を譲り受けたことに始まり、平成9年にはチョウザメ館をオープンし、チョウザメによる観光振興とあわせて、人工ふ化やキャビア採卵の試験研究にチャレンジしてきた。しかしながら、チョウザメの生態及び繁殖・飼育技術の不足から、チョウザメ魚肉・キャビアの量産体制の構築まで至らず産業化に向けては厳しい状況が続いていた。

#### 4-2 地方創生として目指す将来像

平成21年から北海道大学等の指導協力を受けてから徐々に技術も向上し、また、廃校となった小学校跡のプールを活用して養殖施設の拡大を進めるなど、飼育技術・飼育環境の向上が図られ、平成26年度には北海道大学水産科学研究所と包括連携協定を結び、ふ化・養殖技術の確立体制が整った。

美深町総合戦略では、これまでの取り組みを生かし、道内では他に例のないチョウザメのブランド化を核として、独自性を活かして地方創生を図ることとした。

具体的には、現有施設での産業化には施設の規模が小さいため、豊富で良

質な水が大量に確保できる場所に新たに飼育研究施設（美深町チョウザメセンター（仮称））を建設し、チョウザメ魚肉やキャビアを安定的に生産し、新しい地域資源としてブランド化を図り「チョウザメのまち美深」を確立させる。

また、未だ解明されていないチョウザメの生態研究を行う施設として、北海道大学と連携して研究を進めるとともに、新たな地域の雇用を生み出して定住促進を図るとともに、その雇用人材を活用し観光や地域産業との連携し新しい産業の創出につなげる。

そのほか、北海道大学水産学部との連携協定を基に、美深町のフィールドを活用した大学生の実習受入れにより、研究者の育成と人材確保にも取り組むとともに、かつて天塩川に生息していた北海道絶滅種のミカドチョウザメの生態及び繁殖の研究に取り組むなど、雇用、観光、人材育成、移住・定住を一体的に進めるものである。

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
チョウザメ養殖事業の生産額(千円)	550	2,426	4,381	8,374
チョウザメ養殖施設の雇員者数	0人	1人	1人	0人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
チョウザメ養殖事業の生産額(千円)	18,224	32,890	66,295
チョウザメ養殖施設の雇員者数	1人	0人	3人

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

これまで研究を重ねてきたチョウザメ養殖技術を生かし、更に北海道大学をはじめとする産学関連による飼育技術の向上と安定的かつ良質な魚肉

及びキャビアの生産体制を構築し新しい地域ブランドの確立を図り、雇用人数の増を図るとともに、他の産業とも連携し地域産業全体の活性化を図る。

あわせて北海道大学水産学部との連携協定を基に、美深町のフィールドを活用した大学生の実習受入れなどによる将来の町の人材確保を推進する。

さらには産学官連携により北海道絶滅種であるミカドチョウザメの飼育及び繁殖の研究をすすめ、天塩川における天然ミカドチョウザメの復活を目標とする。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体：北海道美深町

② 事業の名称：美深町チョウザメセンター（仮称）整備事業

③ 事業の内容：本事業は、チョウザメ魚肉及びキャビアを良質かつ安定的に生産する体制を構築するため、美深町においてチョウザメの飼育研究施設（仮称：美深町チョウザメセンター）を整備し、北海道大学大学院や北海道立総合研究機構、ほくでんエコエナジー(株)、民間養殖事業者との産学官連携により更なる技術力の向上を図り、チョウザメ関連の新製品の開発を促進し、新しい産業として定着を図るとともに、技術者の育成確保と移住対策とも連携し新たな雇用を促進する。

また、北海道大学水産学部との連携協定に基づき、ふ化技術の向上や生態解明などチョウザメの研究協力とあわせて大学生の実践研修の場として実習受入を推進し、将来の美深町の人材確保にもつなげていくとともに、かつて天塩川に生息していた北海道絶滅種のミカドチョウザメの生態及び繁殖の研究にも取り組み、天塩川でのミカドチョウザメの復活を図る。

さらに、チョウザメの安定生産の体制が整った段階で、地域の産業との連携を推進するため、産業総合研究事業を立ち上げ、農業や林業、商工業など既存産業との連携により新たな産業の構築を模索する。

④ 事業が先導的であると認められる理由

### 【自立性】

チョウザメの成長には時間がかかり、事業開始直後は収益が出ないことから、経営が軌道に乗るまでの間は美深町が事業主体となるが、年間5,000尾の繁殖計画及びチョウザメ魚肉・キャビア

の販売計画により概ね8年後には収支が安定、自立した経営として成果が具現化する段階から経営については民間事業者（美深振興公社）に移行する。なお、5年間での事業効果は低いと見られるが、現在民間事業者（美深振興公社）で進めているチョウザメ事業とあわせて11年後の販売額としては124,663千円を見込み、粗利益として79,627千円を見込んでいる。その後、15年後には販売額344,569千円、粗利益276,446千円と試算しており、更なる研究開発やその後の施設の更新投資や拡張投資、改修整備についても自己資金で対応可能であり、チョウザメ養殖のほかに更に新たな事業展開も期待できる。

今回整備する施設での稚魚生産が、今後の美深町における稚魚生産拠点となることから、15年後の販売額の全てはこの施設での生産にかかるものである。

#### 【官民協働】

美深町、北海道大学水産学部、北海道立総合研究機構、ほくでんエコエナジー(株)、美深振興公社、民間養殖業者による本町のチョウザメ産業化を検討する「美深町チョウザメ事業推進委員会」を継続させ、技術力の向上と生産体制の確立を図り、新しい産業としてチョウザメの振興を図る。

販売面においては、既にチョウザメ養殖に取り組んでいる民間事業者（美深振興公社）との連携協力により一体的に推進し、同社運営するびふか温泉での料理提供や町内飲食店との協力による町内一円でのチョウザメ料理の提供を促進し、キャビアが本格的な出荷に至る段階においては、都市部における高級レストランやホテルなどへの出荷や、ホテル等で産地フェアイベントを開催する中で、美深産を広くアピールし、単なる食材としての販売のみならず、食をきっかけとした美深町のPR事業とも連動した取り組みを図る。

#### 【政策間連携】

本事業により、雇用機会の創出の実現に加え、大学生の実習受入を積極的に推進することにより将来の人材確保を進め、人口の流入等に一体的に取り組む。また、地域産業とも連携しながら、新たな産業の創出にも取り組んでいく。

さらにキャビアが本格的な出荷に至る段階においては、都市部における高級レストランやホテルなどへのチョウザメ&キャビアの出荷のほか、美深町の農畜産物とも連携した「産地フェア・イ

ベント」を開催する中で、美深産を広くアピールするとともに、単なる食材としての販売のみならず、美深町のPR事業とも連動した取り組みを図る。

また、施設全体が完成した際には、視察研修・観光的な受け入れも行い、稚魚ふ化施設棟においては、稚魚の販売や地域の特産品の販売なども検討していく。

さらに、この稚魚ふ化施設棟については、北海道大学大学院の研究施設として、チョウザメの生態や繁殖研究の実践的なフィールドとして、各研究機関や大学院生の実習など受入を推進していく。

### ⑤ 重要業績評価指標（KPI）及び目標年月

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
チョウザメ養殖事業の生産額(千円)	550	2,426	4,381	8,374
チョウザメ養殖施設の雇用者数	0人	1人	1人	0人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
チョウザメ養殖事業の生産額(千円)	18,224	32,890	66,295
チョウザメ養殖施設の雇用者数	1人	0人	3人

### ⑥ 評価の方法、時期及び体制

#### 【検証方法】

検証は、毎年3月末時点のKPIの達成状況を総務課企画グループが取りまとめ、各関係団体及び町民の代表で構成する「美深町まち・ひと・しごと創生推進会議」において効果を検証し結果をまとめるとともに、ホームページ等で公表する。また、検証結果に応じて今後の事業方針や経営内容に反映させる。

### 【外部組織の参画者】

「美深町まち・ひと・しごと創生推進会議」構成：北はるか農業協同組合、美深町商工会、美深林産協同組合、美深町建設業会、美深町自治会連合会、美深町自治会女性部連絡協議会、美深町青少年育成協議会、美深消費者協会、連合美深地区連合会、美深町社会福祉協議会、美深町体育協会、美深町文化協会、美深町PTA連合会、北洋銀行美深支店、一般公募。

### 【検証結果の公表の方法】

検証結果は毎年度町ホームページで公表する。

#### ⑦ 交付対象事業に要する経費

・第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 1,252,645 千円

#### ⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日（5ヵ年度）

#### ⑨ その他必要な事項

特になし

### 5-3 その他の事業

#### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

#### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

##### (1) 北海道大学実習生等の受入事業

事業概要：北海道大学水産学部との連携協定を基に、美深町のフィールドを活用した大学生の実習受入れにより、チョウザメ生態研究の推進と研究者育成及び人材確保に取り組む

実施主体：美深町

事業期間：平成29年度～平成33年度

## 6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成34年3月31日

## 7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

#### 【検証方法】

検証は、毎年3月末時点のKPIの達成状況を総務課企画グループが取りまとめ、各関係団体及び町民の代表で構成する「美深町まち・ひと・しごと創生推進会議」において効果を検証し結果をまとめるとともに、ホームページ等で公表する。また、検証結果に応じて今後の事業方針や経営内容に反映させる。

#### 【外部組織の参画者】

「美深町まち・ひと・しごと創生推進会議」構成：北はるか農業協同組合、美深町商工会、美深林産協同組合、美深町建設業会、美深町自治会連合会、美深町自治会女性部連絡協議会、美深町青少年育成協議会、美深消費者協会、連合美深地区連合会、美深町社会福祉協議会、美深町体育協会、美深町文化協会、美深町PTA連合会、北洋銀行美深支店、一般公募。

### 7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

#### 【数値目標】

	事業開始前 (現時点)	平成29年度 増加分 (1年目)	平成30年度 増加分 (2年目)	平成31年度 増加分 (3年目)
チョウザメ養殖事業の生産額(千円)	550	2,426	4,381	8,374
チョウザメ養殖施設の雇用者数	0人	1人	1人	0人

	平成32年度 増加分 (4年目)	平成33年度 増加分 (5年目)	KPI増加分の 累計
チョウザメ養殖事業の生産額(千円)	18,224	32,890	66,295
チョウザメ養殖施設の雇用者数	1人	0人	3人

### 7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

毎年度、総務課企画グループが評価検証後、町ホームページで公表する。